

みずくらんど

4

福生市史研究

1987 陽春



福生市

多摩川の筏流し

多摩川を下る筏（いかだ）は、多摩の木材を江戸へ送る唯一の輸送手段であった。青梅の上流で組まれた筏の到達地は六郷。およそ1週間の旅であった。やがて鉄道や自動車にとってかわられ、大正末年には姿を消す。写真は明治末年頃の熊川付近を下る筏。背後には、いまもかわらぬ大岳山がみえる。撮影は故森田浩一氏。

（森田 豊氏提供）